

# わたしの 効果倍増! 教材活用術

## 『まんてんスキル漢字』を活用して、 語彙力と書く力を伸ばそう

神奈川県中郡二宮町立山西小学校教諭

赤羽 裕子

### 1. はじめに

四年生で学習する漢字は、全部で二〇〇字。中学年は、他の学年と比べて、学習する漢字が多いことが特徴です。その二〇〇字を、いかに楽しく効率よく学習し、そして定着を図れるかが課題となってきました。

国語科の学習では、漢字学習が必須でありながら、学習時間は十分に確保されていません。単元の初めに新出漢字を学習した後の、定着のための繰り返し練習は、それぞれの教師のやり方に任されています。

漢字を覚えるためには、たくさん書くこと、そしてたくさん使うことが大切です。

しかし、ただ繰り返し新出漢字を書くだけでは、漢字は覚えられても、活用するまではいかず、なにより「つまらない」学習になってしまいます。

基本の漢字学習ドリル学習を起点として、より多くの効果が得られ、定着が実感できる方法はないかと模索しながら、取り組んできました。

### 2. 『まんてんスキル漢字』の活用例

このドリルは、ぱっと開いたときに、右側と左側のページの使い方が見ただけでわかり、とても使いやすくなっています。右側が新出漢字につき五回練習するためのページ、左側は新出漢字を活用するためのページとなっています。

このようにページの役割が明確に分かれていることを生かし、このドリルを使って、何度も練習する方法を行うことにしました。

#### ① 『まんてんスキル漢字』に丁寧書き込む

まずは、新出漢字の練習です。四年生でも、書き順がぐちゃぐちゃのまま書いていることも少なくありません。黒板でお手本を示しながら、書き順の確認をします。合わせて、とめやはね、はらいなどの間違いやすい箇所についても説明し、ドリルに赤で注意書き込みます。漢字が大きく上に書かれているので、注意する場所を赤色でぬったり、注意点を書き込んだりするのに向いています。熟語の確

認をし、空書きを行った後に、実際に『まんてんスキル漢字』に書いていきます。その際、なぞり書き二文字と自分で書く一文字の計三文字で、教師がチェックを行うことにしています。間違えて覚えたまま、何度も練習をすることがないようにするためです。また、五文字を続けて書くと、どうしてもだんだんと字が雑になってしまう傾向が見られたためです。

三文字十二文字にしたことで、一文字一文字を丁寧に書けるようになり、残りの二文字にも集中して取り組むことができるようになったと思います。



▲『まんてんスキル漢字』・右側ページ

日々の授業で使う教材や教具。

隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？

このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

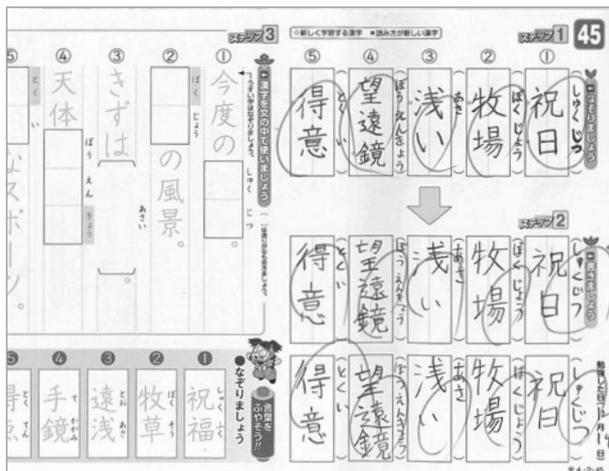
### ② 何度も学習する

『まんでんスキル漢字』の左側のページは、二回に分けて学習していきます。ステップ1・2が熟語の練習となつているため、まずはその部分で、熟語としての活用の定着を図ります。その後、ステップ3で、文中での活用・他の熟語の学習を行います。

分けて学習することは、教師にも子どもたちにとってもメリットがあります。教師は、チェックをする範囲が少ないため、短い時間に点検することができ、その日のうちにすぐに返却することができます。子どもたちは、間違いに早く気づくことができ、休み時間などに直すことができます。

また、毎日のように『まんでんスキル漢字』のやり取りを行い、こまめに添削を行うことで、全員が同じ学習の進め方を行うことができます。子どもによって、「○ページが終わっていない」という進度の違いがあったり、教師が添削をしていなかったりすれば、子どもに学習のフィードバックができていないこととなります。全員が同じように学習できていること、すぐに学習の成果をフィードバックできていることは、子どものためでもあり、教師の負担軽減にもつながります。

このような方法により、学校の学習時間の中で、三〜四回に分けて同じ漢字の学習に取り組んでいます。やはり、時間をとって漢字を書く回数を重ねることにより、漢字の定着が図れるのです。



▲『まんでんスキル漢字』・左側ページ

### 3. 『まんでんスキル漢字』をもとにした

#### 宿題の活用例

基本的には、三年生で学習した国語辞典四年生の漢字辞典の活用を狙った宿題ですが、『まんでんスキル漢字』を利用すると、宿題が早く進むことを、子どもの側から発見しました。自作の宿題プリントは二種類あり、それぞれのプリントで、自分で書き込んだ『まんでんスキル漢字』を活用できます。

#### ① 音訓読み・意味を調べる際に活用

一枚目の自作プリントでは、「漢字辞典を活用すること」、「漢字の意味を知ること」、「熟語を知ること」を目的としています。特に「漢

浅	牧	祝	栄	欠	康
あさ	まき	いわ	はか	か	か
①あさ(あ)の少ない足	①牛や馬を放しかりにするその場所(つがさ)とする。	①いわ(い)は、祝(い)ひ。	①はか(は)は、栄(え)ひ。	①か(か)は、欠(か)け。	①か(か)は、康(か)げ。
②あさ(あ)の少ない足	②あさ(あ)の少ない足	②あさ(あ)の少ない足	②あさ(あ)の少ない足	②あさ(あ)の少ない足	②あさ(あ)の少ない足
③あさ(あ)の少ない足	③あさ(あ)の少ない足	③あさ(あ)の少ない足	③あさ(あ)の少ない足	③あさ(あ)の少ない足	③あさ(あ)の少ない足

▲自作プリント(1枚目)。新出漢字を学習した後に、音訓読み・意味・熟語について漢字辞典で調べて、まとめる。

字の意味を知ること」は、同じ読み方の漢字で、誤った使い方をしてしまうことが多いため、漢字そのものの意味を知ることにより、誤った使い方を減らしていきたいと考えて、この項目を入れました。

このプリントを宿題として行う場合、『まんでんスキル漢字』には、音訓読み・意味・熟語が全て載っているために、利用する子どもが多くなります。

② 熟語を調べる・お話づくりで活用  
さらに漢字の活用を図るために、二枚目の熟語・お話づくりの自作プリントを使用します。このプリントでは、右側に新出漢字を使った熟語を書き、左側には右の漢字五つを入れたお話を書きます。

右側の熟語をまとめる部分に取り組み際に、『まんでんスキル漢字』を活用しています。

子どもによっては、国語辞典・漢字辞典を使って、『まんてんスキル漢字』には載っていない熟語をまとめておくこともありすが、『まんてんスキル漢字』や辞典のどちらかを使って、それぞれの方法でまとめています。新出漢字の練習とはいえ、漢字のみをひたすら書いたり、同じ熟語を何度も書いたりするだけでは、活用の幅はあまり広がりません。多くの熟語を知ること、使い方を知り、語彙を増やしていけると考えます。

そして、プリント左側のお話づくりの部分で、さらに書く力を伸ばしていきたいと考えています。五つのなんの接点もない漢字を、お話の中で取り入れていく際に、ヒントになるのが右側の熟語です。右側の熟語を手助けとし、複数の熟語の中から使いやすそうな熟語を選び、自分でお話を組み立てていきます。

やり始めた当初は、一文が新出漢字一文字で簡条書きのような文章になり、お話の形になかなかできず、苦労していました。しかし、やはり「継続は力なり」です。回数を重ねるごとに、お話は意味をなし、半年が経つころには、添削する教師が笑ったり感心したりしてしまうお話も見られるようになりました。一人ひとりのプリントにコメントを書いたり、学級で紹介したりすることにより、子どもたちのやる気を引き出すようにしています。そういった積み重ねもあり、子どもたちは徐々に書く力をつけてきていると感じています。

漢字の 読み カタカナ 読み 漢字の 読み カタカナ 読み	票 ひょう すう すう すう	希 き ほ ほ ほ	望 ぼう ぼう ぼう ぼう	士 し し し し	脈 みく みく みく みく
漢字の 読み カタカナ 読み 漢字の 読み カタカナ 読み	葉 は は は は	勇 ゆう ゆう ゆう ゆう	待 たい たい たい たい	山 さん さん さん さん	文 ぶん ぶん ぶん ぶん
漢字の 読み カタカナ 読み 漢字の 読み カタカナ 読み	選 せん せん せん せん	か か か か か	あ あ あ あ あ	た た た た た	で で で で で
漢字の 読み カタカナ 読み 漢字の 読み カタカナ 読み	私 し し し し	は は は は は	ア ア ア ア ア	ル ル ル ル ル	山 さん さん さん さん
漢字の 読み カタカナ 読み 漢字の 読み カタカナ 読み	私 し し し し	は は は は は	ア ア ア ア ア	ル ル ル ル ル	山 さん さん さん さん
漢字の 読み カタカナ 読み 漢字の 読み カタカナ 読み	私 し し し し	は は は は は	ア ア ア ア ア	ル ル ル ル ル	山 さん さん さん さん

▲自作プリント（2枚目）。右側に熟語、左側にお話を書く。

#### 4. 『たしかめ小テスト』で確認・定着

最後に付属の『たしかめ小テスト』で定着の確認をします。事前に「○番、テストするよ」と声掛けをします。そうすることにより、前日に家で、または当日の朝に、『まんてんスキル漢字』の最終にある「まんてんチェック」のページを使って、それぞれが復習をしている姿が見られます。

『たしかめ小テスト』は、採点し返却後、まずは間違えた箇所の直しをします。そしてその後、一〇〇点の子どもを含めた全員がテスト下部にある「もう一度書きましょう」に取り組み、再確認をしています。



▲『まんてんスキル漢字』の『たしかめ小テスト』

#### 5. おわりに

漢字に苦手意識をもつ子どももいます。漢字学習は、繰り返しが大変なことは確かです。けれども、それに飽きてしまうことも事実です。だからこそ、漢字学習にバリエーションをもたせ、単なる「繰り返し」に見えない工夫をすることが大切であると思います。

みんなと同じペースでドリル学習が進むことに喜びを感じる子、自分のつくったお話にもらうコメントを楽しみにしている子、小テストで点数がアップし、漢字学習により意欲的になった子……。漢字に興味をもつきっかけを、教師がたくさん用意しておくことが、より多くの子どもに興味をひきつけることにつながると信じて、指導を続けています。